

令和三年

能 泉 涌 流 多 喜

第八十九回

令和三年四月十日(土) 一時始

仕舞 忠 度 高林 呻二

一曲独吟 定 家 高林 白牛口二

春日龍神 高林 昌司

京都府次世代等古典芸能普及促進公演

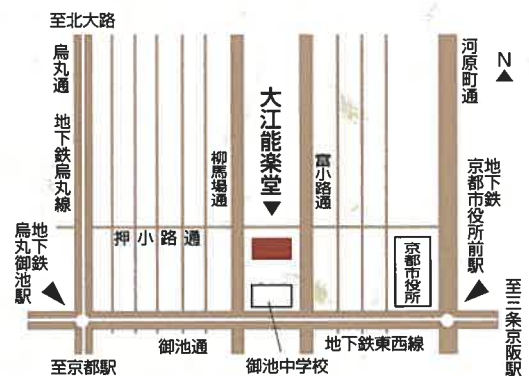
主催 高吟会

大江能楽堂

京都市中京区押小路通柳馬場東入ル 電話 075-231-7620

入場料 前売 7,000円 学生券 3,000円
当日 8,000円 全席自由席

問合せ 〒603-8354 京都市北区等持院西町15 高吟会
電話075-462-1490 FAX.075-463-3494
E-mail koginkai@ares.eonet.ne.jp
URL http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/



地下鉄「烏丸御池」または「京都市役所前」下車。徒歩約10分。

動 静 以 天 地
視 哉 涌 泉 美

鈿 之 翁

涌 泉 能 番 組

仕 舞 忠 度

高 林 呻 二

一 曲 独 吟

定 家

高 林 白 牛 口 二

休 憩 二 十 分

春 日 龍 神

間

高 林 昌 司
大 坪 賢 明
江 崎 欽 次 朗
松 本 義 昭
茂 山

河 村 大 前 川 光 範
成 田 達 志 森 田 保 美
茂

附 祝 言

今 回 の 「 定 家 」 の 一 曲 独 吟 に つ い て

高 林 白 牛 口 二

能を舞うには先ず曲目の選定から始まります。自分で曲目を選べる時も曲目を指定して依頼を受ける時も変わりはありません。私は依頼を受けた時は此方の希望は云わない事にしていました。役者として如何なる時にも如何なる役にも適応できないでは一人前ではないと考えていたからです。今回の一曲独吟に「定家」を謡う事にしたのは或る方の一言に起因しています。

「定家」と云う曲は私に取って非常に思い入れの深い曲の一つです。或る篤志家から私の父に「瘦女の面」が預けられました。父はその「瘦女の面」を用いて「定家」の能が舞いたかったのです。その時はまだ私も一門が能楽界から除外されていた時代でしたから公開の舞台が出来なかつたのです。でも高林家の稽古舞台で僅かな人々を招いて試演の会を開催しました。除外されていた時期です。当然高林家以外の者は舞台上に参加出来ません。つまり地謡は私一人で独吟したのです。随分丁寧に仕込まれて当日は無事に大役を終える事が出来ました。喜多流に復帰させられて後に私はこの涌泉能でシテを舞いましたが地謡を謡う機会はありません。一曲独吟を始めて十曲を手がけました。この「定家」は本来なら一年前に謡う事になって居ましたがコロナ禍のために一年延期の形で今回実現の運びとなりました。

今回は一曲の能ではなく一曲独吟として謡いますが心の負担としては一曲のシテより何倍も大きいものを感じています。しかし実際に舞台上で謡う時は特別な気構えが必要なのではありません。私としてはずっと舞台上立つ時に身構えて来た事を振り返ればいざ本番では何も恐れる事なく淡々と今迄教え込まれてきた事を忠実に反芻するだけの事なのです。本番の舞台に立ってそこで何か考えて舞う謡うなんて云う事は考えられないのです。今回の一曲独吟もその通りに淡々と教え込まれた事を忠実に謡って再現しようと考えています。

次 回 予 告

令 和 三 年 六 月 十 八 日 (金) 十 八 時 始

第 七 回 高 林 白 牛 口 二 の 謡 を 聴 く 会

於 喜 多 能 楽 堂

一 曲 独 吟 盛 久 高 林 白 牛 口 二

主 催 高 吟 会

許可なく写真撮影録音録画は、堅くお断り致します。携帯電話 ポケットベル 時計のアラームは、予めお切り下さい。